

中山神社本殿



指定区分	国指定重要文化財(建造物)
読みかた	なかやまじんじゃほんでん
所在地	津山市一宮
指定年月日	大正3年4月17日
解説	中山神社は美作国の一宮で、戦国時代に焼失したが、天文6年(1537)～永禄2年(1559)に、出雲富田城主尼子晴久が再建した。その後、明治18年(1885)に現位置に移された。方3間(10.45m)単層、檜皮葺、入母屋造で、妻に向拝を設けて唐破風を付けた構造は「中山造」と呼ばれる。斗拱[ときょう]間の彩色彫刻を入れた墓股は室町時代の典型を示す。また、四周に回した廻縁を支える板墓股は江戸時代の特徴を表し、廻縁下に施される装飾は、美作地方でよく見られる手法である。
アクセス方法	JR津山駅から車で約15分
公開状況	外観のみ
設備	
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定重要文化財(建造物)
ぶんかざいめい (文化財名)	中山神社本殿
よみかた	なかやまじんじゃほんでん
しょざいち (所在地)	津山市一宮
していたひ (指定した日)	大正3年4月17日
せつめい	<p>現在(げんざい)の建物(たてもの)は1559年(ねん)に再建(さいけん)されました。「中山造(なかやまづく)り」といわれる様式(ようしき)の建物(たてもの)で、この神社(じんじゃ)の形(かたち)をまねて建(た)てられた神社(じんじゃ)が美作地方(みまさかちほう)や備前北部地方(びぜんほくぶちほう)などにあります。</p>